

JAXA 宇宙科学研究所と相模原市立博物館見学記

令和元年8月17日のJAXA宇宙科学研究所と相模原市立博物館見学は酷暑の夏の日であった。参加者16名は午前9時40分JAXA宇宙科学研究所正門に集合あった。宇宙科学探査交流棟の開館10:00、見学開始10:15。

この見学は「展示解説ツアー」で専門職員によりこと細かな説明が行われた。他の見学者と一緒に数十名の見学者で混雑した。20分遅れて移動した相模原市立博物館は自由見学だった。

見学者証



◇国立研究開発法人

宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所

横浜線淵野辺駅の南約1キロに位置し相模原市の町田市に近い場所にある。

宇宙科学研究所では、宇宙の構造やその起源を探る、太陽系の生い立ちを探る太陽系科学、宇宙環境利用科学、宇宙工学などの研究をしている。日本の宇宙科学分野の研究・教育として大学共同利用機関の役割も果たしている。宇宙研究は、謎の解明により我々の住む地球の環境問題の解決にも繋がる。将来の新技术・産業の創出へも結びつく。また次世代の人材育成・国際貢献にも関わっている。

相模原キャンパス在勤職員数約500名。研究のための契約、財務を行う職員、施設職員、大学研究者、外国の研究者、メーカーの方々が働いている。

はやぶさ2

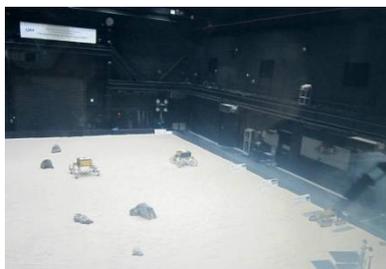
「はやぶさ2」との通信を行う管制室は、この施設にあり長野県の大野アンテナを通じて指令を発している。



◇宇宙探査実験棟

宇宙探査実験棟は都合で見る日の出来ない日があるそうだが、当日は運良く見学出来た。実験の目的は将来地球外の天体を探査する時のシミュレーションとして現地を再現して実験する事により探査を実現するミッションを行う場所だ。

宇宙探査実験棟



◇過去の衛星・探査機打ち上げロケット

続いてロケットが展示されている外に出た。衛星や探査機の打ち上げを行う機体の大きさを実感できた。暑い中でしたが、参加者は熱心に解説を聞いていました。

展示ロケットに直面して解説を聞く参加者



展示されている打上ロケット



◇宇宙科学探査交流棟

宇宙科学探査交流棟は、冷房完備なので汗もかかず快適な見学が出来た。解説者もここでは熱が入り予定時間オーバーとなった。この交流棟は、昨年出来上がったばかりの立派な建物で、人々の関心の大きさを実感した。

宇宙科学探査交流棟受付前にて



はやぶさ2 展示パネル



ロケットと展示パネル



◇相模原市立博物館

この博物館は、展示部門の他にプラネタリウム・全天周映画や各種講演、天体観測室など幅広く鑑賞・イベントが行われている。今回は、有料で時間の制限もあり参加できなかった。博物館見学は11:40スタートとし、以後の3カ所を自由見学とした。

・天文展示室

奥にはコスミックシアターがある。星雲・星座や探査機が飛んでいる映像を上下左右ワイド画面で臨場感たっぷりに体験できた。(当日以前に筆者体験)



・自然・歴史展示室

「大地の生い立ち」「郷土の歴史」「くらしの姿」「人と自然のかかわり」「地域の変遷」について相模原市に密着した展示内容であった。(常設展示)



・特別展示室

「オーロラが輝く奇跡の星」写真展が展示されていた。職員によると、当博物館の学芸員により企画が行われたとのことであった。

写真だけではなくオーロラの発生するメカニズムなどを解りやすく展示していた。展示を通じて、学芸員の専

門知識の深さと作品への思い入れ、心意気を感じた。

オーロラ写真展風景

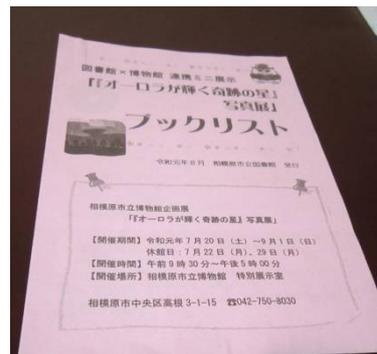


オーロラ写真展パンフレット



撮影は 中垣 哲也さん (H19年放射線技師から転身) 多くの講演・展示などイベントを企画して活動している。

ブックリスト

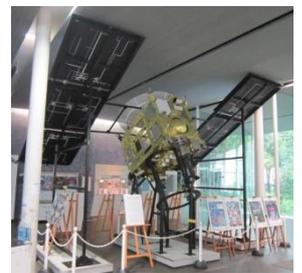


この写真展は相模原市立図書館との連携で行われた。図書館のオーロラに関する本10数冊(ブックリスト)が紹介されている。

・エントランスホール展示

小惑星探査機は、2003年5月内之浦宇宙空間観測所(鹿児島)から打ち上げられた。燃料漏れや通信途絶などのアクシデントに見舞われたが、2010年6月地球に無事帰還した。それは映画化され話題になった。

「はやぶさ」(初代)



◇和食さと相模原

昼食と懇談が行われた。希望者のみなさんご参加有難う御座いました。



*相模原市立博物館の写真は支障の無い範囲を掲載しております。

報告者 小松崎 眞一